

A-2 山元町坂元中浜地区

2011年12月12日(月)

報告者名	赤尾 智宏	被調査者生年	未確認
調査者名	高倉 浩樹	被調査者属性	山元町教育委員会生涯学習課
補助調査者	赤尾 智宏		

10:05に山元町中央公民館の一室に案内され、山元町教育委員会生涯教育課の話者に聞き書き調査を行った。話者は分厚いファイルと多くの書類を準備していた。

東日本大震災における中浜地区の被害状況

山元町の面積、全体の三分の一が津波で浸水し、話者宅も流出した。中浜地区は集落全体が流出してしまい、山元町の南側は壊滅状態、死者数の割合が高い。中浜小学校は流出せずに残っている数少ない建造物の一つである。2011年11月11日に災害用の建築基準法が改正され、津波浸水地域は、海に近い順に1種、2種、3種と危険区域として段階ごとに分類されている。復興計画として、1種、2種の地域は住居の新築は許可されないが、人が住まない建造物である工場などは新設が可能である。神社は流出前と同じ場所に建築可能となっている。

ここ数年、山元町の人口は右肩下がり、減少傾向にあった。震災前の山元町の人口は16,000人(2,500世帯)であったが、震災により600人以上が亡くなった。現在、中浜地区にどれだけの住民がいるかは不明である。住居は流失したが住所登録を変更せずに、山元町の住所登録のまま地区外に暮らしている場合がある。そのため、行政が把握している居住者の人数と実際のそれとは違いがある可能性が高い。

東日本大震災で役場職員170名の内4名が殉職し、震災後、職員一人に課される仕事量が増加した。一方で、他の自治体、国、県からの同じ公務員の人的支援があり、宮崎県からは2,000名が応援にきた。宮崎県の自治体が地元の特産品を販売し、売上金を義捐金として寄付した。宮崎県だけでなく、北から南まで多くの自治体に参加し、仮設住宅に住む山元町民から近隣地域の人々まで、多くの人が参加し大いに盛り上がった。

現在、自治体の職員が足りず、過労から休職している職員がいる。昨日の毎日新聞のトップで自治体の仕事の人材が足りないという記事があったが、話者はこれに共感した。生涯教育課管轄の仕事は多く、遺跡の発掘から様々な施設の管理まで多岐にわたる。

東日本大震災における文化財の被害状況と今後の課題

12月5日に文化財保護委員が開かれ、東日本大震災に伴う有形文化財の指定について審議された。笠野地区の八重垣神社は有形指定文化財であったが、津波により流出したため、有形指定文化財ではなくなった。八重垣神社は、山元町一帯では主要な神社であり、神社に参拝して、初日の出を見て年を越す人も多かった。震災後、八重垣神社の残骸が地域の人によって収集された(写真1,2,3,4)。その過程で、八重垣神社の神輿が発見された。話者は、神輿を中心に八重垣



写真1 正面から見た八重垣神社跡



写真2 正面右に集められた神社残骸



写真3 鳥居や石碑



写真4 小祠

神社で開かれていた「天王さん祭」を無形文化財に指定できないか検討中である。「単純に建物がある、ないというだけでなく、地域性を考慮して文化財としたい」と考えている。

「天王さん祭」を無形文化財として指定したいが、指定文化財は半永久的に継続させる必要がある。その場合、神輿を担ぐ人など、継承する人がいなければならない。話者の友人に、笠野でサーフショップを営んでいる人物がいる。今年の夏に町長杯のサーフィン大会を計画していたが、東日本大震災により予算審議が中断され、企画は流れてしまった。サーフィン大会は、現在行われているホッキ祭りと並んで町の大きなイベントにするつもりだった。山元町のビーチには山形など県外からもサーファーが訪れていた。ビーチのクリーン活動に従事するようなサーファーであるため、上手く祭の担い手へと取り込めないかと期待している。現況では、文化財指定に向けて、「人がいない、住宅がない、地域がない」という問題がある。話者は、他にも大晦日に八重垣神社に参拝できるように、発電機で電気を通す計画を考案中である。一時的に電気が通った場合、地域の人が参拝するのではないかと考えている。

震災後の文化財関係の活動として、やまもと民話の会という団体による活動がある。やまもと民話の会とは生涯学習の会であり、教育委員会の管轄対象である。この団体が津波の聞き取りを行っている。やまもと民話の会による『巨大津波』では八重垣神社の宮司 A 氏、中浜地区の神楽について言及してある。地域の古老が津波で亡くなったため、言い伝えをどのように継承する

かが課題となっている。

東日本大震災後の中浜神楽の状況

11月23日にふれあい産業祭が開かれ、中浜神楽が小学生によって披露された。神楽で使用した子ども達の衣装は、仮設住宅で暮らす母親達によって作成された。その他の道具の準備の過程について話者は把握していなかった。

震災以前の中浜神楽は区民会館で行われていた可能性もあり、会場が津之明神社であったかどうかは不明である。また、中浜地区神楽保存会以外の（芸能に関する）団体は、小さい単位で各地区に存在するはずだが、詳細に関しては分からないと答えた。

山元町では11月3日の文化の日から1ヵ月間を「祭月間」と定めており、商工会が中心に「ふれあい産業祭」など、いくつかの祭が開かれる。イチゴ、リンゴ、ホッキ貝が山元町の特産品であり、先月の産業祭ではリンゴの収穫時期でもあり、リンゴが特産品の中心となる。11月以外にも祭が開かれており、6月の産業祭は、収穫期であるイチゴが中心となり、また2月にはホッキ祭がある。今後は、復興、鎮魂の式典、来年の3月11日には慰霊祭が行われる可能性が高い。